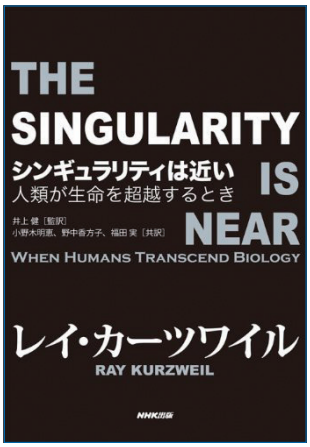
■若手に読んでもらいたい本

山下一郎のおすすめ
奈良先端科学技術大学院大学 教授



分　野：自然科学
書籍名：シンギュラリティは近い―人類が生命を超越するとき
著者名：レイ・カーツワイル（著），小野木明恵（翻訳），野中香方子（翻訳），福田　実（翻訳），井上　健（監修）
出版社：NHK出版
出版年：2012年8月31日
価　格：3,240円

私は今でこそ生体分子高分子材料を扱うが、高分子とは縁のないエレクトロニクスに惹かれ無機材料の研究から始めた人間で、この「私の本棚から」への執筆はおこがましい思いでいっぱいです。

この本棚に通用するように格調高く、シュレディンガーの「生命とは何か」を挙げようと思いましたがやはりあまりに古い。そのような私が、この本棚で若い研究者におすすめするとなると、未来への圧倒的期待を掻き立てる「シンギュラリティは近い：レイ・カーツワイル」を挙げたいと思います。

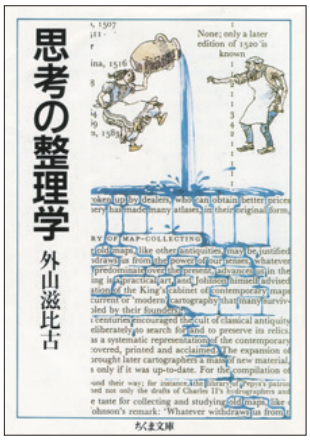
ここで言うシンギュラリティ（特異点）とは、いわゆる人工知能が人類を超える瞬間を意味しているだけでなく、テクノロジーと人類が融合する未来が始まるポイントを指しています。機械と人間が新しい意味での生物界を作る。大変刺激的でありワクワクしてきます。無邪気とも言える科学のポテンシャルと人類の正義への信頼をベースに未来を描いており、読む私たちを仮想空間と実空間が融合した新しい世界観に引き込んでいきます。

専門用語が多くなかなか難解で、ななめ読み派の私には立ち往生することも多いですが、そのエッセンスはグイグイと伝わってきます。そう簡単に実現できないのは間違いないのですが、読んでいるとできそうな気になってくるところがまた醍醐味です。研究者として批判的に読んでも大変面白い1冊です。

研究者に希望と刺激と誤解と突破力を与えてくれる、このような本を私はこよなく愛しています。

■私の役に立った本

河村暁文のおすすめ
関西大学化学生命工学部 助教



分　野：一般書
書籍名：思考の整理学
著者名：外山滋比古
出版社：ちくま文庫
出版年：1986年（文庫版）（ちくまセミナー1として1983年に刊行）
価　格：520円（税別）

「自由な発想で、新しいものを創る」よく耳にし、そして自らもよく使うフレーズではないでしょうか。しかし、それをゼロから実践するときになって初めて、どうしていいかわからず途方にくれます。本書では、新たなモノを創造するための「考え方」についてエッセイ風に述べられています。

新しいモノを創り出すためのヒラメキはいつ生まれるのでしょうか？　中国の欧陽修が述べた三上の説（馬上、枕上、厠上）にもあるように、ふとしたときに生まれることが多いのではないでしょうか。そしてそれはふっと消えてしまいやすいものです。そこで、著者は肌身離さず手帳を持ち、そのヒラメキをいつでもすぐにメモすることを薦めています(si)。次に、そのヒラメキを寝かせます。「思考の整理法としては、寝させるほど大切なことはない」と著者は説いています。ある程度時間が経った後にそのヒラメキを見返すことにより、「やはり良いヒラメキだ」と思うものと「大したことなかった」と思うものに分かれます。このようなヒラメキのブラッシュアップにより思考が整理され、新たなモノの創造へとつながります。本書にはほかにも、捨てる（忘れる）ことや自分を褒めてやること、ブレインストーミングなど、さまざまな「思考の整理法」について紹介されています。

本書を読むまで、漠然と「考え」てきましたが、初めて「考える方法」について真剣に考えるようになりました。IT化が進み指一本で知識が得られる現在、われわれに求められるのは知識力ではなく創造力ではないでしょうか。創造力を磨くために、本書を手に取り「考える方法」について一度考えてみる機会をもってみてはいかがでしょうか。

＊(si)は、e！高分子のSupporting Informationにハイパーリンクされています。

©2016 The Society of Polymer Science, Japan